

沖縄旧石器人のチャレンジャー 3 万年前の航海徹底再現プロジェクト

沖縄県立博物館・美術館
主任学芸員 片桐 千亜紀

1. 人類の海洋適応と世界への拡散

アフリカで誕生した人類は、猿人から原人、旧人、新人へと進化する過程において、海洋資源の利用や船を利用した島々との航海など、海洋適応を進めて世界中に拡散していきました。我々の直接の先祖である新人においては、30,000 年～50,000 年前には複数の島への渡航に成功していたことが明らかになっています。

2. 琉球列島の島々で発見される旧石器時代遺跡

琉球列島では北は種子島から南は石垣島まで、多くの島で旧石器時代の遺跡が発見されており、少なくとも 35,000 年前には人類が生息していた可能性が高まっています。沖縄では港川フィッシャー遺跡から出土した港川人が有名ですが、近年、石垣島の白保竿根田原洞穴遺跡でも多量の旧石器人骨が発見され、骨から直接行う年代測定や mtDNA の分析に成功し、約 20,000 年前には確実に石垣島に人類が生息していた事実や、彼らが南方からやってきた人々の可能性が高いことが指摘されています。また、沖縄島のサキタリ洞遺跡では、数万年に及ぶ島での居住に成功していたことや、世界最古の釣り針の発見、モクズガニの季節的利用など海洋適応を果たした沖縄旧石器人の暮らしぶりが明らかとなりつつあります。

3. 3 万年前の航海徹底再現プロジェクト

琉球列島の島々に旧石器人が生息していたという事は、彼らは船を利用して海を越えることに成功していたという大変重要な事実を認めざるを得ません。当時の琉球列島は、海面が最も下がったと考えられる最終氷期最寒冷期（約 20,000 前）においても、大陸とは接続しておらず、島嶼を形成していたことがわかっているからです。そして、琉球列島への渡航・生息には様々な困難があったことが想像されます。台湾から与那国、沖縄・宮古間など目標の見えない航海、世界最速の黒潮、大陸の暮しからは想像もできない島の少ない資源。彼らはこれらの課題に果敢にチャレンジし、そのひとつひとつをクリアしてきたようです。現在、国立科学博物館をはじめ、様々な分野の研究者の力を結集して琉球列島への旧石器時代の船とその航海の方法を再現するプロジェクトが始動しています。2016 年は与那国島から西表島までの実験航海を実施しました。2018 年には台湾から与那国島を目指すための調査・研究も進めています。果たして我々は旧石器時代の船と航海を再現し、彼らの偉業に近づくことができるのでしょうか。今後の展開を楽しみにして下さい。